

ビーワンテテ

表示名称	配合目的	成分説明
水(ビーワン支給)	基剤	
B G	保湿剤	適度の湿潤性と抗菌力があり、皮膚に対する刺激も少ないので、化粧品として有用である。グリセリンよりもさっぱりした使用感が保たれ、べたつきも少ないので、各種クリーム、乳液、エアゾール製品、歯みがきなどに保湿剤として、また香料の保留剤として広く使用される。
ペンチレングリコール	保湿剤	無色透明の液体で僅かなにおいがあり、水、エタノールによく溶ける。保湿剤として使用される。ポリオールの一種で、抗菌性に極めて優れており、防腐目的にも利用される。
グリセリン	保湿剤	最も古くから用いられてきた保湿剤であり、非常に吸湿性が強く現在でも多くの化粧品に使われている。グリセリンは保湿剤として製品の硬さや粘度を長期間一定に保持させる目的で使用される。また、皮膚に対する柔軟剤として、製品ののび、滑りを良くする。吸湿性を有し、皮膚に対して潤いを与え、しっとりとした感触を与える。グリセリンとヒアルロン酸ナトリウムと一緒に組み合わせると保湿の相乗効果が高まり、薄い皮膜を作り、外気の乾燥に左右されることなく皮膚の潤いをしっかり守る。
トリ(カプリル/カプリン酸)グリセリル	基剤・加脂剤	カプリル酸とカプリン酸の混合脂肪酸とグリセリンとのトリエステルである。飽和の中鎖脂肪酸から構成されているため、天然油脂に比べて酸化安定性に優れている。粘性が低く、展延性に優れている。他の化粧品との相溶性が良い。エモリエント剤、油性成分として広く用いられる。
ヒドロキシエチルウレア	保湿剤	高い保湿性能があり、皮膚の弾力性を向上させる。
ジメチコン	加脂剤・感触改良剤	シリコン油であり、無色透明な液または粘性の液である。においはほとんどない。撥水性に優れ、化粧を水や汗によりくずれにくくする。油分のべたつき感を抑え軽い使用感を与え、ほかの成分が皮膚や毛髪上に広がるのを助ける働きをすることから、油分を配合するあらゆる化粧品の用いられる。
ステビア発酵エキス	保湿剤	整肌成分、甘味料としても有名なステビアの葉と茎の抽出液をさらに発酵させたもの。保湿効果がある。特殊な醗酵方法により、肌荒れを防ぎ、すこやかに保つ。
ヒメフウロエキス	保湿剤	姫風路という草から抽出したエキス。夏に紅色の小花を咲かせる。肌荒れを防ぎ、肌を健やかに保つ。
ポリグルタミン酸	保湿剤	グルタミン酸を含む培地を用い、納豆菌で発酵させ精製して得られるグルタミン酸ポリマーである。化粧品への応用は、保湿性などが期待され、化粧水、クリーム、乳液に使用される。髪への保護効果もあり、シャンプー、トリートメントにも応用される。
セラミド1、セラミド3、セラミド6、フィトスフィンゴシン、コレステロール、ライロイル乳酸Na、キサンタンガム	保湿剤	セラミドコンプレックス成分。セラミド1 角層の細胞間脂質の結合強化。セラミド3 長時間水分保持機能を持続させる。セラミド6 皮膚をなめらかに柔軟にする。これら3つのセラミドを絶妙なバランスで配合し、肌へうるおいを与え、そのうるおいを保つ。
ムコ多糖	保湿剤	ムコ多糖類の水溶液。天然保湿成分として、肌にくるおいを与える。
加水分解DNA - Na	保湿剤	天然のDNAを酵素分解したもの。皮膚上でフィルムを形成し、肌にくるおいを保つ。

表示名称	配合目的	成分説明
PCA - Na、ベタイン、ソルビトール、グリシン、アラニン、プロリン、セリン、トレオニン、アルギニン、リシン、グルタミン酸	保湿剤	肌のアミノ酸組成をモデルとした8種類のアミノ酸を配合し、肌へのなじみが良く、肌にうるおいを与える。
ビャクダンエキス、キハダ樹皮エキス、オオムギエキス	保湿剤	白檀の木質、キハダの樹皮、大麦の種子由来。肌の乾燥を防ぎ、うるおいを保つ。また、肌を柔らかくする効果もある。
シア脂	加脂剤	シアの種子から得られる脂肪である。主成分はオレイン酸、ステアリン酸である。バルサム様の芳香を持ち、融点が28～45と低く、ヒトの体温でも融解する性質に加え、低粘度で潤滑性、拡散・浸透性に優れ、且つ香料の保留性が良好であることから、広く化粧品に使われている。
トコフェロール	酸化防止剤	トコフェロール自体は酸化されやすい性質があるため、ほかの共存物質に対する強い抗酸化力があり、製品の酸化防止剤として使用される。
グリチルリチン酸2K	保湿剤	植物から抽出したグリチルリチンのカリウム塩の形にしたグリチルリチンの誘導体である。肌荒れを防ぎ、肌を健やかに保つ。グリチルリチンは水に溶けにくい。グリチルリチン酸2Kは良く溶ける。
スクワラン	基剤・加脂剤	スペインのオリーブを原料とした、植物にこだわった100%天然植物由来の成分。安全性はもちろん、安定性、抗菌性、保湿性に優れている。皮膚との馴染みに優れており、肌に油分を与え、しっとりなめらかな肌にする。
ダイマージリノール酸ダイマージリノイル	加脂剤	植物由来のオリゴマー型ポリエステル油剤。高粘性、高密着性の液状エステル。油性基材。光沢剤。エモリエント剤。
ラウロイルグルタミン酸ジ(コレステリル/オクチルドデシル)	加脂剤	アミノ酸系エモリエント剤。皮膚に対しては、セラミド様の機能を持ち、肌荒れを防ぐ。
テトラオレイン酸ソルベス 30	乳化剤	各種の油に対し、優れた乳化力をもつ非イオン性界面活性剤。
(アクリレート/アクリル酸アルキル(C10-30))クロスポリマー	増粘剤・乳化剤	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体で、水溶性高分子鎖に親油基を有した構造をもつ非イオン性界面活性剤である。この構造のため親油基にて油をつかみ、高分子鎖で水中にて構造をつくり、油を安定に分散させる。あらゆる油を少量の乳化剤で安定な乳化ができるという特徴を有している。従来にない高分子乳化剤である。
カルボマー	増粘剤	水溶性高分子で、毒性及び眼粘膜、皮膚に対する刺激はほとんどない。白色の粉末であり、水に分散して酸性を示す。これをアルカリで中和すると、透明な高粘度の溶液が得られる。増粘効果、品質の均一性、温度変化に対する粘度の安定性にすぐれ、皮膚上ではさらさらとした感触が得られる。さらに、微生物による汚染がされにくいことなどから、増粘剤として現在もっとも多く用いられている。
水酸化K	pH調整剤	アルカリ剤としてpH調整に用いる。
フェノキシエタノール	防腐剤	グリコールエーテルの一種。僅かに芳香のある無色～淡黄色の透明、粘稠な液体である。防腐効果があり、グラム陰性菌に対し特に有効である。化粧品の使用配合量は1.0%まで認められている。香水の保留剤としても使用される。